高校生未来サミット

VOL. 5

2023年度 高校生未来サミット記録誌
KOUKOUSEI MIRAI SUMMIT VOL.5

KOUKOUSEI MIRAI SUMMIT

今を知ったら変わるかもしれない、
誰かと話したら変わるかもしれない、
未来に残したい世界を作れるかもしれない、
未来を担う君たちと
福島で未来の話をしよう。

原発事故から12年が経過し、高校生未来サミットは今年で5回目を迎えました。今年は2泊3日という長く濃密な旅となりました。特に2日目の3グループに分かれての農業体験は初の試み。「ささき牧場カフェでのチーズづくり」二本松東和地区で有機農業を実践する「佐藤佐市農園での圃場実習」「二本松営農ソーラーでの農作業体験」。体を動かし、農業への深い理解が共有できたと実感しています。育った場所が違う福島の高校生と大阪の高校生が宿を共にし、同じ釜の飯を食べ、汗を流し、語り合い、自然と日に日に仲が深まっていくのを感じられる旅となりました。

旅を通して巡る視察や体験の内容は、「災害・食・エネルギー・暮し」とこれからの人類の未来に立ちはだかる難問。

この国に住む大人たちの誰もまだ解決していないこれらの難問に、当然、用意された答えはありません。3つの体験学習のホストたちはその難問に対し希望を持ち、それぞれの分野で模索しながら実践していました。

体験先での話し合いも活発で「自分ならこうするかもしれない」という高校生たちらしいフレッシュな意見や発言が多く飛び交いました。大人たちもその意見に耳を傾け、彼らの気持ちを感じ取りました。最終日には、短い時間でのディベートやディスカッションでは得られない、2泊3日の長い時間と空間を共有した仲間同士、安心して心を開いて話し合える場が作られました。福島の今を見た高校生たちが、旅を終えてこれから戻る生活の中で、また誰かと話し合い、未来が変わっていくように思います。参加した皆さんをきっかけに少しずつ未来が変わっていく様子が目に浮かんできます。またどこかで、きっとお会いしましょう。

「農」な体験 in 福島

2日目のメイン。3箇所に分かれての「農業体験」。「二本松営農ソーラー株式会社」「ささき牧場カフェ」「二本松東和地区の佐藤農園」それぞれに全く違ったやり方で、未来を見据えた農業を実践している3つの体験先に訪問した。

高校生未来サミットの農体験01 《二本松営農ソーラー》

エネルギーと農業の未来？

ソーラーシェアリングの架台の下で放牧する2頭の乳牛。奥で見守る面々と率先して餌をやりたい！と手をあげた高校生。腕まで舐められ、牛の飼料の食べっぷりに驚く高校生たち

1、2班が訪れたの二本松営農ソーラー株式会社。農業とソーラーでエネルギーを発電し売電を行う新しい営農のスタイルを行っている。ソーラーの下で育てるのは、枝豆、シャインマスカット、小麦、大豆、そして乳牛の放牧も行う。農業の循環が考えられている。

「秋にはお肉になっちゃうんだけど」とスタッフの塚田さんが乳牛の放牧の様子を見せてくれた。乳牛はソーラーの下に牧草を植え放牧で飼養し、グラスフェッド（草を食べて育つ牛）の牛肉が地域の精肉加工者の手でソーセージとなる。「はい、餌やりしてみたい！」と元気に手を上げた高校生。腕まで舐められ、「うわー」と叫び、周りも盛り上がる。塚田さん曰く「牛の唾液はすぐ乾くし臭くないよ」。

それから、圃場の石を集めるグループ、枝豆の収穫をするグループ、草刈りをするグループの3グループに分かれた。元々河川だった畑で大小の石が畑に隠れている。機械が圃場に入れるよう石を拾うのがこの作業。園芸高校の通称・いも先生が「いつもやってる作業やからできるやろー」とカツをいれる、「先生もやるんですからねー！」とツッコむ。やり取りは楽しげだ。

枝豆収穫グループは、ソーラーの架台をうまく作業小屋のようにしたスペースで枝豆の収穫を手作業で行う。実はこのスペースはwifiも完備し珍しい半屋外のワークシェアスペースとしても利用するアイデアだという。

草刈りグループは高校生と福大食農のチームが黙々と慣れた手付きで草を刈っていく。トラクターなどのない時代、農作業は農村の「結い（皆で一緒に農作業を行う）」の精神で繋がっていた。営農のやり方自体は最新だけれど、効率と循環を考えながらも皆で一緒にやる風景を見て、新しい時代の「結い」を見た気がした。

圃場の除草作業を行うチーム。
手作業での草取り

今まで取り除かれた石。なんという量‥！
今回の石はもちろんこの中の一部ですよ

枝豆の収穫チーム。軍手をはめて手作業での収穫。ワイワイしゃべりながら

今回の体験の段取りを確認。
もちろんチームワークが大切

今回、ほうれん草を植えた圃場（↓）
食農学類の学生さんたちも率先して作業を体験した（→）

手慣れた作業に見入ってしまう、いざやってみるとなかなかそうはいかない

菌床しいたけのハウスを見学。暗くしたハウスで温度と湿度の管理をすることが重要

今回蒔いたほうれん草の種。
指先で2粒つまみ丁寧に撒くのがコツ

高校生未来サミットの農体験02 《ささき牧場》

チーズづくり体験

あっつぅ！

3、4班が体験にきたのは福島市の西側佐原地区にあるささき牧場。同牧場はカフェを併設しておりメインとなるソフトクリームには行列ができるほど地元の人のみならず観光で訪れた人にも人気のカフェ。カフェのオーナーの國府田純（こうだ）さんの指導のもと採れたての生乳を使ったチーズづくりを体験した。

ささき牧場の乳牛は25頭ほど。牧場としての規模は創業当時からあえて拡大させずに成長を続けている。まず創業時から程なくして、牛乳を自社で低温殺菌牛乳をつくり配達し販売をスタート。牛の餌となる牧草から生産し、ソーラーシェアリングの下で子牛の放牧も行うなど、品質や経営の面からも様々な工夫が行われている。前にオープンした牧場の敷地内にチーズの加工場もその一つ。

今回参加した高校生、大学生は合わせて9名。チーズ作りの説明を受け、モッツァレラチーズ作りを体験。加熱され、練られたチーズを食べやすい大きさに成形する作業を行ったのだが、これが思ったより難しい。とにかくチーズが熱い。手袋を二重にしても熱い。加工所には悲鳴のような「熱い！」の声が響く。そして、チーズがツルツルと滑り、うまくちぎれない。何とか成形を終え、國府田さんから「できたてを食べて」と声がかかるとすぐさま味見。できたては、弾力があり、製品とはまた違った味わい。できたてのチーズが食べられるとは貴重な体験となった。

カフェオーナーの国府田純さんから
チーズのレクチャーを受ける

手袋をして、いよいよチーズづくり
開始！

高校生未来サミットの農体験03 《佐藤佐市（さいち）さん》

東和の里山で野菜づくりと農の暮らしを学ぶ

5、6班が訪れたのは二本松市東和地区の佐藤佐市さんの農場。

佐藤さんは、東和地区で有機野菜の生産を行っている。「ここの里山とここの暮らしが好きなんだ」と話す表情は誇らしげだ。

東和地区は二本松市内の中でも東側に位置しており阿武隈高地の中にある。山間の畑で季節の葉物野菜、小麦、菌床しいたけ、野菜の苗などを生産している。

有機栽培をはじめたのは「自分でつくった生産物を少しでも思ったとおりの値段で売りたい」ということ、「農薬を使っていないことで安心して食べてもらいたい」という2つを語ってくれた。年中出荷できるよう計画するのはむずかしい。今年は異常気象ということもあり、なおさら大変だ。そんな中でもうまく里山の条件を生かして高付加価値の野菜を生産する佐藤さんの営農スタイルが評価され、今年度の福島県農業賞を受賞した。

この日行った作業は、ほうれん草の種まき。マルチと呼ばれる黒い雑草対策用のシートの上から種まきを行った。佐藤さんが最初に実践してみせ、高校生も教わりながら後に続く。種は2粒ずつ、自分の指で土に穴を開けそこへ丁寧に種を入れていく。9月中旬とは思えない暑さで種まきは大変な作業。「おれが穴を開けるから、きみは種入れて土をかけて！」みんなで声をかけ合い、協力して種まきを終わらせることができた。

種まき体験の後は、佐藤さんが栽培している野菜のハウス見学をした。実際になっているトマトを自分で採って食べたり、普段なかなか見ることがない菌床しいたけのハウスを見て貴重な体験をすることができた。

高校生未来サミット 未来への提言。

SEPTEMBER 17 in FUKUSHIMA UNIVERSITY

最終日の9月18日。この日は旅を通して学んだことをグループごとに発表を行う。舞台は福大食農学類の大講義室。「えんたくん（まるいダンボールを机として意見を書き込んだり図を書いたりするアイテム）」を使ってのディスカッションとなった。「こんな未来にしたい！」という理想はみんな違っていて当然。旅を通して仲を深めた者同士素直な意見がたくさん出た様子。高校生たちが旅を通して見えたものは多様。グループ発表の中に個人のこの旅とこれまでの人生や思いが溢れる発表になった。

1 WE SAY 提言！「日本国民全員福島県人」

学校生活で友達と福島の原発事故や社会問題について話す機会はあまりなく、話したいと思っても、楽しくないと思う人もいる。でも自由に話し合えたらより良いアイディアが出されて、世の中もいい方向に変わっていくと思う。

原発事故と再エネ、農業を考えることは、持続可能な社会へも繋がっていると思う。身近に話し合える社会にしていきたい。大阪の高校生として、福島で学んだことを家族や友達に伝えていきたい。

これらの出された意見から、福島と大阪の高校生が福島で感じて考えた提言は「日本国民全員福島県人」。誰もが少しでも福島の事故について考えることで社会は変わっていく。

2 WE SAY 提言！「和（輪）を作る」

福島の今を体験して「知る」「考える」「つなげる」というキーワードが出された。3つは重なり繋がって、和（輪）になっていく。正しい情報を知り、話しやすい雰囲気の中で考える。風通しの良い話の中では意見が出しやすくなった。福島を伝えていくことで、また福島を知る人を増やしていく和（輪）を作る。

3 WE SAY 提言！農業の未来～循環する社会～

農業は大変だというイメージを多くの人がもっているが、最新の農業技術を取り入れることで苦労も減っている。農業高校でも最新の技術・機械などを学ぶ機会が欲しい。農家と先生と生徒が一緒に学ぶ場があってもいい。地域資源、知恵、地域の価値を学び合い循環させていく。

4 WE SAY 提言！「正しい事実を残す」

請戸小学校を見て、津波で体育館の床があんな風に落ちてしまうなんて、来てみなければわからなかった。災害の実態と記憶を未来に残していきたい。

残すべき事実は災害だけではない。ドイツは戦時の自らの加害も隠さず学び、過ちを繰り返さないために未来につなげている。日本は戦時の加害について触れる機会も場所もない。アジアの多くの人々にしてきた加害も知らなければならない。自らに不都合なことでも未来への「正しい事実」として残すべきだ。

5 WE SAY 提言！風通しの良い政治を目指す！

私たちは20歳になり選挙権を持ってから選挙や政治について関わっている。ドイツは若いころから当たり前のように学校でも友達とも政治について話している。正しい知識を身に着け、暮らしや政治に関心を持ち、風通しの良い政治を目指していく。

6 WE SAY 提言！福島から「新福島」へ

復興は元通りに戻すことだが、時間も思い出も戻せない。戻りたい人も含めた新しい復興「新興」という言葉を考えた。

ソーラーシェアリングを見学して、大阪でもぶどう農園で可能だと感じた。もっと多くの人に知ってほしい。

原発には反対・賛成どちらの意見もあった。私は今後も地震などでまた原発事故が起きる心配があるので反対です。

「新福島」＝福島で起きたことは日本の課題解決や地域創生に役立つと考え伝え広げていく。

参加した大人の声

「高校生へのエール」

福島県や大阪府で農業を専攻している高校生や高校で教師をしている方たちとのワークショップでした。私も64歳で現在福島大学大学院に在学し、GPSやAIを活用したスマート農業や地球環境に配慮したアグロエコロジーを学び、自分の農地で実践しているのですが、福島・大阪の両方とも農業高校では農業機械を教えていないとの話に衝撃を受けました。地球環境が急速に悪化し、世界中の農地で砂漠化が進み、不耕起やグリーンマルチなどの土を守る農法が各国で大急ぎで進められている中で、日本では10年以上前の農業技術しか教えられていない。これは、日本の未来社会にとって大きな禍根を残すことになると思います。私も福島県南相馬市で「楽で楽しく儲かる」農業の未来を拓くために日々農業しています。今回参加された高校生の皆さん、農業は、日本で最も大切な未来を創る産業です。農業を始めるチャンスは今です。ぜひ世界と日本の現状を学んでください。

三浦

「自分の言葉で発表する皆さんに大きな刺激」

自分の子どもよりも少し若いみなさんとの交流に、ドキドキしながら参加させていただきました。私は女性団体で活動していますが、日常的に平和や環境、政治などの問題について気軽に話すことは難しいと感じています。グループワークで、若いみなさんが自分の考えを出し合って意見をまとめ、自分の言葉で発表する姿に大きな刺激を受け、未来への希望を感じました。

東京電力福島第一原発事故から12年、政府は原発推進に舵を切りました。みなさんは「高校生未来サミット」で福島の問題を入り口に、未来についていろいろ考えたことと思います。おかしいと思ったことや、こうだったらいいのに～と思ったことを声にだしていきましょう。持続可能な未来をいっしょにつくっていきましょう。

村上

本旅の全行程

過去5年間の高校生未来サミットの中でも集大成といっていいような2泊3日の旅となった今回。誌面のスペースではとても語りきれないこの旅を振り返る当コーナーであります。

1日目 9/16

7：45　伊丹空港集合
8：40　福島駅西口バスプール出発
9：00　伊丹空港出発
10：25　仙台空港着
10：45　仙台空港出発（バス）
　　仙台空港～新地IC
11：30　玄米の全袋検査説明
　　相馬市野馬土 福島農民連
12：00　野馬土出発
12：50　浪江町道の駅　昼食
13：50　浪江町道の駅出発
14：00　請戸小学校視察
15：30　出発（バス）
15：30　大熊町　バスの中から見学
17：30　土湯温泉YUMORI到着
18：00　夕食準備・夕食
19：00　福島大学の学生との交流タイム

仙台空港から向かう先は、玄米の相馬市野馬土（のまど）。ここで玄米の放射性物質検査システムを視察。徹底した検査体制で出荷後もQRコードで追跡できるなどの仕組みを学んだ

相馬市から海沿いを南下し、目指すは浪江町の請戸小学校。本校は津波の被害を受けた生々しい姿のまま保存・展示されている。
真剣に校内を視察する高校生たちの眼差しがあった。12年前の記録を見て何かをしっかりと感じ取っていた様子

バスから見る、原発立地の大熊町・双葉町の今

請戸小学校見学後は、バスの中から原発が立地している双葉町と大熊町を通過した。両町とも原発事故以降12年が経過しても、帰還困難区域が多数設定されており、今でも人の住めない町や住宅、学校を目にすることになる。原発事故が起きると途方もない被害が発生し、長期にわたって継続している。この危機が日本中にあることに改めて気づく。

大熊町は新しく建てられた町役場を中心に、町が再建されている。住宅や学校、商業施設を集約し、暮らしやすい町を目指している。大型ハウスでイチゴ栽培も始まり雇用も創出している。同じ被災地でも一番遅い復興かもしれない。それでもふるさとを元気にしたい住民や町外からの移住者が頑張っている。被災地を見て、2度と同じ過ちを繰り替えさないための教訓を感じてほしい。

農業に正解はない！

2日目 9/17

8：00　朝食
9：00　土湯温泉YUMORI出発
　　3班にわかれて体験活動
12：00　昼食　あだたら食農schoolfarm
13：00　あだたら食農schoolfarm
14：00　ソーラーシェアリング視察
15：30　ソーラーシェアリング出発
16：00　佐々木牧場カフェ到着
18：00　夕食準備・夕食
19：00　体験の報告・交流会

午前中にそれぞれの体験（P2～3参照）からあだたら食農schoolfarmにて昼食&おやつタイム。毎年恒例となったスイカの振る舞いを楽しむ高校生たち（↑→）不耕起・有機栽培で味の違うトマトを試食しながら生産の過程や生育の違いなどについてレクチャーを受けた

二本松市営農ソーラーを午後に皆で視察。ソーラーシェアリングで売電を行いながら下の圃場では高価値な作物を栽培する営農のスタイルを学ぶ。

ソーラーシェアリングで収穫した枝豆はもちろん晩御飯に

理論と実践
どっちも大事！

福島大学食農学類の実践圃場にて深山（みやま）先生の説明を受ける。理論と実践両方大事！

3日目 9/18

8：00　朝食
8：40　土湯温泉YUMORI出発→福島大学
9：10　ワークショップ
9：30　農家・市民・学生で対話・
　　提言発表・交流・感想のシェア
12：00　昼食（お弁当）
13：00　福大見学
14：50　福島大学出発（バス）
　　福島駅にて福島の高校生・大学生解散
16：30　仙台空港着→お土産購入
17：30　仙台空港出発…ANA738便
18：50　伊丹空港到着・解散（19：10頃）

食農学類の校内を視察。カフェ風のラボ内でミニ実験中（↑↖）平先生の研究室にて高校生たちのための特別講義中の風景（←）先生曰く「理系は世界を変える」と熱い言葉で締めくくられ、高校生たちも感動。ちなみに1億円超えの高価な設備にも驚嘆

3日間の濃密な経験を経た高校生たち。そして大学生たちとの間にも強い絆が生まれた。ほんとうにまた福島に来てほしい

また会おうね！
連絡するね！

土湯温泉 宿の思い出 in YUMORI

この旅の宿泊地となったのは土湯温泉YUMORI（ゆもり）。研修施設や調理室があり、温泉でゆっくり休み学びもある旅の拠点となった。食事は毎年恒例となったカレー。お米は、福島産の品種ごとに食べ比べられるように炊飯器がずらりと並び、ご飯を囲むことが何よりの交流になった。1日目の食後は大学生たちの考案ミニゲームで緊張がほぐれ旅を楽しむ雰囲気に変わった。

2日目の夜には今回の旅に参加している福島の高校生が行ったドイツ研修の報告会が開かれた。再生可能エネルギーや、戦争、民主主義・歴史・政治について学んできたことを発表があった。新しい世界を見てきた同年代の言葉は大いに刺激になり、次々と質問が飛び交った。

その後「まだ喋ったことがない人としゃべってみよう！」とトークタイムがはじまった。違うグループで話す機会がなかった人同士で「なんで参加したの？」「大阪ってどんなところ？」「ドイツどうだった？」「大学生活について教えて」と、いろんな話題が盛り上がり、この旅にさらに一体感が生まれた夜になった。

❶

❷

❸

❹

❺

❻

❶ささき牧場カフェでつくったモッツァレラとあだたら食農ファームのトマトのサラダ❷グループごとに囲むテーブル❸ドイツ研修の報告会❹震災のときの気持ちを言葉で伝える❺&❻トークタイム

みんなの声

旅を終えて。

高校生の感想

知らないことだらけの3日間で、福島の高校生、大学生、農家さんともたくさんお話ができてとても楽しかったです。今日学んだことを家族や友人に伝えたいです。

最終日のワークショップではたくさんの意見を発表することができ、他のメンバーの意見も聞くことができました。発表する場もあり、すごい充実した3日間になりました。

請戸小学校の見学はとても考えさせられることが沢山ありました。

ドイツに行って体験したことを話してくれた高校生の発表を聞いてすごいなと思いました。

今までの私の人生で1番刺激的な3日間であり、体験でした。

私が特に良かったと思うのは、最終日に福島大学でおこなった提言発表です。同じ班の方々の意見が凄くて、なかなか自分の意見をいうことは出来なかったですが、勇気を出して意見を出してみたところ、いくつかの意見を出すことに繋がりました。

皆さんの視野が広く勉強になることばかりで、自分にはないものをたくさん持っていて、凄く輝いて見えました。

私自身は、答えとなるものを未だに出せていないので、今回の経験と知識を生かして答えに導けるように普段から考えます。

福島に行く前日まではとても不安だったけど、福島に行きとても楽しかった。だけど、悲しい気持ちにもなった。3日目の「えんたくん」で新しく「新興」という言葉を考えることができたのが良かった。原発に関する情報を知れたことが体験とリンクさせることができ良かった。何より楽しかったし、たくさんの思い出ができたことが嬉しかった。また、自分が農業の教員になった時に教員として高校生未来サミットに参加できればいいなと思った。

今回の未来サミットで1番驚いたことは、福島原発で発電された電気が一切福島で使われていなかったということです。原発の善し悪しなんか考えたこともなくて、この3日間すごく考える機会が多かったです。なにが正解かは分からないし無いのかもしれないけど、将来なぜその道にしたのか聞かれたら答えられるように、日々考えることだけは忘れてはいけないなと思いました。

学校での話し合いだったら普遍的なことしか話すことができないけど、今回はなんでも話すことができて、自分の意見を持つことへの安心感をすごく感じました。これも、やっぱりみんなが本気で考えているからなんだと思います。

自分は福島の人間ですが、福島の農業についてまだまだ知らないことがたくさんあるなと感じました。持続可能な農業をするため、たくさんの人が工夫しているのだと知りました。

大阪の高校生と交流して、みんな目的意識が高く、真っ直ぐで、刺激を受けました。またこのような場を設けていただけると嬉しいです。

皆フレンドリーですぐに馴染むことができて嬉しかったです。大阪の方言が大好きなので同年代の子と仲良くなれて、地方特有の言葉に触れられる機会を頂けたことに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

人と話せて楽しかった！

私は教科書の小さい写真でしか見た事のなかった景色を実際に目の当たりにして、無力感になりました。衝撃が多く、自分は何を大阪に持って帰ればいいのか分からなくなっていました。3日目のワークショップをして、その土台となる知る、考える、次の世代に繋げるが、分からなかった感情のヒントになりました。思ったこと、学んだことをどんどん発言して、自分の形にしていきたいと思います。

とても2泊3日とは思えない濃い旅だったと思います。

私はチーズが大好きなので牧場カフェを希望した。殺菌方法、乳牛加工の方法や牧場を営むために付加価値を生み出していることなど、酪農について学ぶことができた。牧場でも人数が少ない中、経営しないといけない。職人さんが繊細にチーズを加工していた姿は印象的だった。できたての味はミルクの味だった。もっと食べたいと思った。

コロナ禍で宿泊行事がなかった私にとってこの時間は貴重であり、最高の時間だった。大阪に帰りたくないと思ったほどだ。福島大学を進学の先としたいと思った。

福島の原子力発電に対する意見の数々、再生可能エネルギーをどのように広めていくのか農業高校ならではの発想であったり、実際に現在行動に移してる人が存在していたことに驚きを隠せませんでした。今回の学びを忘れずに将来どんな形でも活かしたいと思っています。

アースウォーカーズさんがドイツに行った時の話を聞き自分は同じ高校生でドイツに行って学ぶという事に本当に心の底から尊敬しかないです。今までは全く思っていませんでしたが自分も海外に行ってみたいと思いました。

大学生の感想

時間の経過とともにみんなの表情が緩み笑顔が増えていること、それに加えてコミュニケーションが活発になり、どんどん自己開示が活発になっていく様子が良かった。

時間の経過とともにみんなの表情が緩み笑顔が増えていること、それに加えてコミュニケーションが活発になり、どんどん自己開示が活発になっていく様子が良かった。

震災や原発のことは経験したのが子どもの時だったからか、子どもとして考える方が考えやすかった。年齢的には大人だが、このサミットでは高校生と同じ立場（子どもの立場）になってこれからの福島や日本について考えることができた。

福島県出身の私にも勉強になる事が多くあり、貴重な体験だった。

高校生だったときの自分と比べ、未来サミットに参加した高校生は意欲的に学習し、意見を言える子たちで本当に凄いなと驚かされた3日間でした。

自発的な高校生やNPOの方たちの刺激を受けて、自分も積極的に発言することや様々な活動に参加しようと思った。

楽しかった！

編集・発行
福島農民連産直農業協同組合
http://www.f-nou.com